

<全体分析>

試験時間 120 分

| |
|--|
| <p>解答形式 全問マーク式</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) 長文3題の総語数は、大問構成が変わった2016年度以降、「2,177→2,428→2,639→2,403→2,533→2,670→2,537→2,571」となっている。</p> <p>出題の特徴 ・長文2題の構成が長年続いたが、2016年度から長文3題の構成になっている (総設問数は60のまま)。 ・大問ⅠとⅡは「空所補充10問 (3択)」と「内容一致5問 (4択)」で、大問Ⅲは「空所補充20問 (3択)」と「内容一致10問 (4択)」という形式が8年続いている。</p> <p>その他トピックス ・すべての大問の文章にはタイトル (Ⅰ : A baby orca sparks a glimmer of hope for an endangered group of whales / Ⅱ : Lessons for philosophers and scientists from Sherlock Holmes and Father Brown / Ⅲ : Your lifestyle has already been designed) が与えられており、最初に確認しておくことが内容理解の一助となる。 ・内容一致の設問として、「類推や推論させるタイプ」のものが出題されるのがここ数年の特徴といえる。</p> |
|--|

<大問分析>

| 番号 | 区分 | 出題分野・テーマ | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|-----|------|---|---|-----|
| I | 読解総合 | 「絶滅危惧種を救うかすかな望み」 (632 words) | 英文は読みやすく、内容一致も紛らわしいものは少なく正解は決めやすい。空所補充は、[33] Chronically、[36] out there、[40] beneath で差がつくと思われる。 | やや易 |
| II | 読解総合 | 「哲学者や科学者に向けた教訓」 (589 words) | 空所補充では、[47] appendix、[50] resonance、[55] paradigm の意味の理解がポイント。内容一致は、本文中の3か所に下線が引かれ、それが意味するところを選ばせる設問が特徴的である。 | 標準 |
| III | 読解総合 | 「大企業によって巧妙に設計されたライフスタイル」 (1,350 words) | 例年の大問Ⅲよりも読みやすく、内容一致も正解を絞りやすい。空所補充の[72] respite、[75] alleviate は難度がやや高めだが消去法で解答できる。内容一致では、本文の記述内容や具体的な事例から類推させるタイプの設問が多く出題されている。 | 標準 |

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

120分の試験時間とはいえ、効率よく解いていかないと時間切れになるおそれがある。そうした意味でも設問の狙いや語彙レベルに習熟するのに過去問対策は欠かせない。最近の人文科学や自然科学の話題を扱ったニュース記事や抽象度の高い論説文からの出題が多く、高度な語彙力に裏づけされた正確で緻密な読解力を養成することが不可欠である。出題傾向は定着しているわけだから、まずは過去問をはじめ、こうしたレベルの英文を数多く読みこなし、語彙力の増強に努めることが大切である。一般常識や背景知識の豊かさも大きな武器となるので、日頃から社会情勢などに関心をもち、英文の新聞や雑誌などの記事をインターネットで読み慣れておくことが望ましい。